

家族の応援でデンマークのたびへ

金子小織

小さい子がいての参加は無理なのでは！

デンマークの旅に参加するにあたり私には心配な事がありました。それは6歳の息子と2歳の娘の事です。息子とは娘の出産の日以来、娘に限っては一度も夜に離れたことがないのです。

職場から研修の話がきた時、まず今の状況では子どもが小さいので参加は無理だろうと思いました。

しかし、帰宅し研修依頼の話をする、特に斜め前に住む私の実家の父は大賛成！！良い機会だから是非行ってらっしゃいと。留守中は保育園を休ませて見ていてあげるから・・・

夫も快く賛成してくれましたが毎日帰宅の遅い夫は余り協力は期待できない為、実際一番大変なのは職を持ちながら朝食、昼の弁当、夕食、入浴、就寝中の面倒をみてることになるであろう実家の母なのです。

でもその大役を快く引き受けてくれることになり、あとは私の気持ち次第ということになりました。

涙をのんで納得した子ども

2歳の娘は話をしてもよく判っていませんでしたが、6歳の息子は不安そうに話を聞いていましたが、「いかないで欲しい！」という強い反対はありませんでした。

私も色々悩みましたが勤続15年、結婚し子どもを2人産み突っ走ってきた日々。

同じ生活の繰り返し毎日の毎日、ここで一呼吸し新しいものを得る良いチャンスなのは、



<おやつのパーマン>

そして子どもと少し距離を置くことで子どもも成長するし、自分にとっても客観的に職場、家族を見るよい機会と思い参加を決意致しました。

6歳の息子は前日「ママが居ないと寂しい～よ」と目を潤ませていたものの出発当日は「バイバ～イ」と素っ気無い態度で少々気が抜けてしまいました。

気がかりでたびたび電話

子どもの事が心配で離陸前成田空港から電話を入れると息子は夫とプールに出掛け娘も寂しがってはいない様子で少し「ホット」しました。

そしていざデンマークへ出発。

デンマークに着いてからも同室の村山先生と「日本は今何時頃ね」「子どものお土産何がいいかしら」、など頭の片隅から子どものことが離れることはありませんでした。

久方ぶりの自分だけの生活

それでも、自分の事だけをやっていれば良い生活は久しぶりです。

子どもがいない生活ってこんなに楽しかったのかと実感し、肩の荷が降ろせた9日間でもありました。



<薪割り体験>

ママにとびついた！

実りある研修も無事に終了、日本に帰国し成田から母に連絡。

心配はよそに「全然平気だったわよ！一回もママって言わなかったわ」とショックな一言。

まあ元気はなにより、寄り道もせずまっすぐ家に帰りました。

玄関に入るやいなや「ママ！ママ！」と飛びついてきてくれる子どもたち。久々に会う子どもたち。たった9日間でしたがされど9日間、こんなしっかりした顔つきだったかなと思わせるような凛々しい顔つきでした。案ずるより産むが安し、と諺にあるように、お互いを成長させてくれる旅でもあったのです。

みやげ話に花が咲く

9日間子どもたちなりに気を遣ったのか、喧嘩をしたり愚図ったりすることは全くなかったようです。

子どもたちとお土産を広げながら、デンマークの話をしました。

彼らは興味津々で色々な話を聞きたがりました。

私も気持ちが新鮮で子どもたちとしっかり向き合い異国のゆったりとした気持ちで過ごす日々が続きました。

飛行機を見る度に娘は「ママは飛行機に乗ってデンマークに行ったんだよね」と何度も繰り返して言っていました。

ママ！

またデンマークに行ってもいいよ！

9月に入って仕事も始まり、子どもたちの保育園生活もスターとして毎日が慌しく過ぎていきました。

そんなある日いつものように「早くしなさい」と小言を言っていた時、息子が突然「ママまたデンマークに行ってもいいよ！」と言い出したのです。

どういう意味。今何って言ったの・・・?? 頭の中で？マークがぐるぐるまわりそして我に返り「ハッ」としました。

知らず知らずのうちにデンマークで吸収してきたものが、いつもの生活に飲み込まれてしまったのだと・・・

あのときの気持ちを忘れないように

日本のゆとりのない生活は子どもたちにとっても負担になるのだ。デンマークから戻った当初の私はきっと心にゆとりがあり、つかの間優しくいられたのでは。

デンマークから帰って5ヶ月、あの時の気持ちを忘れてはいけない、と心に誓って日々の生活を過ごしています。

子どもの本音、何気なく言った一言なのかも知れませんが、今の日本の現状を見ているようで、わたしの心に重くのしかかってきました。

HPIは ひの社会教育センター 検索で